

平成27年度 第2回燕市学校給食運営委員会会議録（要旨）

日 時：平成28年3月22日（火） 16時00分から16時45分

場 所：燕市西部学校給食センター 会議室

出席委員：燕東小委員、燕北小委員、小池小委員、小中川小委員、粟生津小委員、
吉田小委員、吉田北小委員、分水小委員、分水北小委員、島上小委員、
燕北中委員、小池中委員、分水中委員、燕西幼稚園委員、
アレルギーオブザーバー

欠席委員：燕南小委員、大関小委員、吉田中委員、学校薬剤師

事務局：教育長、教育次長、主幹、学校教育課長、
栄養教諭、栄養職員、栄養士、学校給食係
(株)味彩燕、(株)メフォス

1、開会あいさつ 上原教育長

年度末のお忙しい中、お集まり頂きありがとうございます。

委員の皆様には、学校給食運営委員として、学校給食が円滑かつ適切に実施されるよう、予算の審議や事業内容のチェックなどにご協力をいただいております。感謝申し上げます。

燕市の給食をより良いものにするため、本日もご協力をお願いいたします。

さて、一昨年（平成26年）の9月に西部学校給食センターが稼働し、昨年（平成27年）の4月からは西部学校給食センターの調理と配送などの業務委託が始まりました。特に大きな問題もなく、今までと同じように給食が提供されています。これらの陰には、学校栄養士の皆様と委託業者が一瞬たりとも気を緩ませることなく、緊張感をもって努力していただいている賜とっております。

食物アレルギー児童生徒への除去食・代替食などの対応も順調に進められ、食物アレルギーを持つ児童生徒の保護者に対しては情報交換する場所を設けるなど、様々な企画も行ってまいります。そのことに関しては、後程ご報告させていただきます。

現在、衛生に関しても、異物混入に関しても、最も基準が厳しいのは学校給食です。子どもたちに安全・安心を確保する上では当然のことではありますが、ほんの些細な異物であっても、学校現場では慎重に対応しております。給食に金属製の異物でも混入しようものなら、新聞やテレビで報道されるほどの重大事です。昨年末には燕地区で金属製の細い針金状の異物が見つかり、金属探知機を導入している味彩燕の調理場に三条保健所が立入り検査を行うなど、物々しい対応を取らせていただきました。今後は、市の施設でも金属探知機が必要になるのではないかと考えております。

市では、給食のさらなる安全性の確保にむけて努力を続けてまいります。どうか、今日の運営委員会でも、委員の皆様のご意見をお聞かせいただき、子どもたちの心

と体の健やかな成長のために、学校給食が円滑に実施できますよう、活発なご審議をお願いいたします。

2、議事進行

(1) 食物アレルギー児童生徒の状況について 報告者：事務局

◆平成 27 年度末の食物アレルギー調査集計表から

市では、毎年、児童生徒に対して「食物アレルギー調査」を行っています。お手元の資料は、平成 28 年度の学校給食の実施に向けて行った食物アレルギー調査の集計です。

各学校ごと、アレルギー原因物質ごとに対象人数を集計しています。

合計については、延べ人数となっています。1 人が何種類ものアレルギーをもっている場合がありますので、延べ人数は実数より多くなります。

◆エピペン所持者の数

食物アレルギー対応が必要な対象者の中で、エピペンを持っている児童生徒は 7 名でした。エピペンを持っている場合は、救急車要請の可能性も想定して、消防本部と情報を共有しています。

◆食物アレルギー対応の方法等について

「食物アレルギー対応マニュアル」を各学校へお配りし、校長の管理指導のもと養護教諭及び給食主任と連携を取りながら対応を進めています。

マニュアルは、アレルギー調査方法、給食での基本的な対応方法、相談会の持ち方、緊急時の対応、救急車要請の仕方などについてまとめてあります。

◆主治医の診断について

食物アレルギーがある場合、学校活動全般にわたって配慮が必要となります。給食ばかりでなく、食品を扱う活動、理科の実験、校外活動、部活、児童クラブでのおやつにいたるまで、様々な場面で配慮が必要になりますので、給食で除去食や代替食が対応できない場合でも、文部科学省では概ね 1 年に 1 回程度の主治医の診断を義務付けています。

◆アレルギー相談会について

学校では、診断書や血液検査の結果を確認し、個人個人のアレルギーのレベルに合わせた対応方法について保護者と相談会を持ちます。

また、入学式の後に、新担任を交えて次の日から始まる給食の対応について打合せ会を行います。

◆給食センターでの調理対応について

調理及び配送方法について、給食センターで使用している内容を資料にまとめたので、参考までにご覧ください。

■燕西小学校の事例：校長先生からの説明

燕西小学校におけるアレルギー児童への配慮について、簡単にご紹介します。

燕西小学校では、新1年生については就学時健診前にアレルギー調査票を配布し、就学時健診の日に相談会を希望するかどうかを把握しています。

給食主任が相談会を希望する保護者と相談する時間を設け、園での様子やアレルギーの状況を聞き取り、入学後の給食対応の流れについて説明をした後、相談会の日時を決めて、その場で案内状をお渡しします。

場合によっては、主治医の診断書を用意してもらうようにお話します。

教育委員会と味彩燕の担当を交えて、相談会は1月に行っています。

今年度は4名の希望があり、学校医の立会いのもとで1人ずつ相談会を持ちました。

保護者から状況を聞き、その後、教育委員会のご指導のもとで、給食の持ち方をそれぞれ話合いました。

牛乳については、診断書をもとに止めることができます。

それから、アレルギー献立表をもとに「食べられないもの」を伝えることを理解していただきます。

給食前の薬の服用やエピペンについては、確実に把握するよう気を付けています。

それから、在校生の調査については、11月にアレルギー調査を実施し、12月に必要な人は医師の診断をお願いしています。6年生については、中学校へ引継ぎます。

新年度に入ると、4月の第1回目の職員会議で、アレルギー児童に関して職員への周知徹底を図ります。そして、職員への啓発として、学校医の先生からアレルギーに関するお話をさせていただき、エピペンの使用について全職員で研修を行います。

また、担任が代わりますので、4月の給食が始まる前に保護者と担任で確認を行う機会を設けています。

保護者へは、

①給食前の薬の服用、エピペンの処方について確認する。

②1年生の薬の服用については、最初の期間は保護者から服用させていただき、自分で飲めるようにしていく。

以上の2点について説明します。

また、保護者がアレルギー献立表を毎日チェックし、子どもと担任に「食べられないもの」を毎日伝えるようお願いしています。もちろん、担任も献立表を確認します。

「食べられない献立」がある日は、保護者がお弁当を持ってくることになっていますので、食べやすい雰囲気や環境をつくれるよう、周りの児童への指導を行います。

必要に応じて、お弁当を冷蔵庫のアレルギー専用の引き出しへ預かるようにしています。

アレルギーで牛乳の飲めないお子さんには、水かお茶を持参する対応をしています。そして、献立で牛乳以外のものが出る日は別に対応を検討します。

それから、エピペンを持っている児童の写真撮影については、保護者から了解を得て、

エピペンを保管してある場所の写真と一緒に教務室に掲示して、職員で情報を共有しています。それから、消防署へ情報を提供し、緊急時に備えています。

味彩燕からの文書は、学校を経由して保護者へ渡るようにしています。

違う学年との交流活動については、担任が担当者にアレルギーのあることを伝えるようにしています。「ひまわり給食」といって、学年を縦割りにして給食を食べるのですが、担当者が注意して児童の様子を見るようにしています。

普段の給食の時間については、担任が食べることでできない献立について確認し、配膳も担任と一緒に確認し、他の児童にも食べることができないことを伝えます。

また、アレルギーのある献立の日は、配膳しないように配慮します。

学校行事等に関するおやつについて、例えば料理クラブで料理を作って食べる場合や、お楽しみ会などで食べるとか、家庭科で調理実習があるとかについても配慮します。

5年生では、妙高へ校外活動に出かけますが、施設と連絡をとったりして対応します。

生活科・総合における店舗訪問についての試食もチェック。「ひまわり遠足」でのおやつのは交換は禁止しています。万一の事があると大変ですので。

本校では、エピペンを所持している児童は2名います。1名は中学校へ進学します。

簡単ではありますが、燕西小学校の対応についてです。

〔質疑応答〕

委員長 ご説明ありがとうございました。

折角の機会ですので、ご質問やご意見はございませんか。

委員 アレルギーのある児童が、食べやすい雰囲気をつくるように心がけておられるということですが、具体的な児童への説明はどのようなものでしょうか。

校長 本人の意思とは関係なく、体にとって食べられないものがあるということを話します。わがままや好き嫌いで食べないわけではないことを説明します。

委員 それは、4月に給食が始まる時だけでしょうか。それとも、何回にもわたって続けるのでしょうか。

校長 基本は、4月に1回ですが、問題がありそうときは続けて説明することもあります。

委員 燕西小のお話を聞いて、参考になる点がたくさんありました。

うちの学校はたまたま強いアレルギーの生徒がいないので、なかなか燕西小のように用意していない部分があるのですが、これはおそらく、どの学校でも用意しておいたほうが良い内容だと感じています。特に東部学校給食センターの稼働を待っている旧燕地区の学校では、そんな感じを受けました。

この会議に出席している校長は、年度初めに適切な指導ができるかと思いますが、折角このような良い資料がありますので、ぜひ校長会等で共有をしたいと思っています。

あわせて、アレルギーの研修会等もあると思いますので、校長会で共有すると年度初めはスムーズに行くのではないかと感じました。

このような会議をもつのであれば、次回から第2回目の会議はもう少し早く開催していただきたい。

事務局 そのように配慮いたします。

(2) 学校の食育推進について 報告者：事務局

お手元の資料「食の指導プランつばめ」をご覧ください。

「食の指導育プランつばめ」は、市内の学校と教育委員会で連携しながら作成した小学校・中学校の9年間を通して実施する食育の計画です。教科領域の内容は、学年ごとの教科書から食育に関連する内容を抜き出したもので、学校の食育の全体計画の中で実施していただくために参考として載せてあります。

特別活動に関しては、小学校・中学校の9年間の中で必ず実施する5項目について載せています。

ただ、吉田・分水地区には県から栄養士が配置されていますので、クラス担任と協力しながら授業を行うことができますが、燕地区には県の栄養士が配置されていないため、食育の授業にかかる教諭の負担が大きいという事情があります。

そこで、先生方が必須5項目の食育指導を行いやすいように、食育指導用教材を市で作成し、指導案を付けて貸し出しを行っています。

今日は、この5項目の中から「はしのつかい方」について、栄養士から実際の指導の再現をしてもらおうと思います。

委員の皆さんも、小学生に戻ったつもりで食育の指導を体験してください。

— (箸の正しい持ち方の指導) —

以上、学校で行われている食育推進の活動について、ご報告を終わります。

[質疑応答]

委員長 私も、学校の食育部に所属してまして、このような指導を見せていただいたことがあります。その時は「野菜のちから」だったのですが、すばらしく効果的な教材だと思いました。

ただいまの食の指導に関して、ご質問・ご感想はございませんか。

委員 子どもたちの中には、多指症といって、指が欠損している場合があります。

3本、4本、あるいは6本など、そういう場合の箸の指導はどのようにしたら良いのでしょうか。

栄養士 今のところは、そのような症例がないので…

委員 その辺のところは、今後の課題として考えていただければと思います。

委員長 参考になる事例を紹介していただき、ありがとうございました。
今日は、普段見る機会のない食育の授業なども拝見させていただき、大変良かったと思います。
今後取り上げていただく内容については、さらにご検討ください。

3、閉会あいさつ 長谷川主幹

本日は、たいへんありがとうございました。

年度末のお忙しいところ、各学校の先生方、そして保護者の皆様にお集まりいただきありがとうございました。わずかな時間でしたけれども、今後の燕市の給食運営について良い示唆をいただいたと思います。

前半はアレルギーについて、燕西小学校さんの良い実践例を紹介していただき、大変参考になりました。

年度末に感じることで、アレルギーについては「引継ぎ」が最も大事だということです。当然、担任は分かっているなければならないけれど、担任ばかりでなく、いかに他の職員が情報を共有できるかということが事故を未然に防ぐキーワードになるのではないかと思います。

委員のご意見にもありますように、学校の良い対策事例を他の学校へも広げることが教育委員会の課題であると考えておりますし、学校給食運営委員会の開催時期につきましても、十分に配慮しなければならないと感じました。

そして、医療機関等との連絡体制につきましても、十分に機能するよう努めたいと思います。

後半の食育については、これらの教材を学校で活かしていただければと思います。

現在、燕市第2次学校教育基本計画を策定しておりますが、その中では食育についても重要視しており、さらに取り組みを進めてまいります。食の指導プランにつきましても、基本計画に合わせた形で充実させてまいりたいと考えております。